

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の唱和を怠ることなく、常に「共に歩む」の理念を念頭に業務に取り組んでいます。	法人の理念「共に歩む」を柱に統一目標・施設総合目標を掲げている。朝夕唱和することで職員はお互いに理解を深めている。理念にそぐわない言動が職員に見られた場合にはその都度管理者が個別に対応し話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会へ参加し、地域の一員としての施設が定着出来るよう取り組んでいます。また、年2回の防災訓練、年中行事化した「夏祭り」「花火大会」等での交流も続いています。ボランティアの受け入れも積極的に行っています。	地域の自治会に加入し会費の支払いもしている。総合防災訓練には地域の方に参加していただき協力を得ている。ホームで行う夏祭りや花火大会にも参加していただき、共にたのしんでいる。オカリナ演奏や腹話術等のボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内有資格者による研修会、講演会の開催。外部講師を招いての市民公開講座等を積極的に開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施。御利用者様は基より、ご家族様代表、広域連合担当者、市担当者、地元区長、介護相談専門員など様々なお立場の方にご参加いただいています。出席率も非常に高く、毎回活発な意見交換が出来ます。ご利用者様の日々の生活の様子を毎回スライドショーでご覧いただくことで、目に見える形でお伝え出来るようにしています。	3ヶ月ごと第三木曜日に開催している。毎回ほぼ全員が参加している。意見交換も活発に行われ、記録はスタッフがいつでも見れるようにし業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護相談専門員2名の定期的な来訪があり、日常の様子を把握して頂くと共に相談専門員の方から貴重な意見や提案等をいただき、ケアに活かしております。訪問日時を予め決める事はせず、ありのままの状況をいつでも見ていただけるようにしています。	毎月市が主催する福祉関係の会議に出席して交流を図っている。介護相談専門員の方2名が毎月1~2回来訪され、気づきや意見を提案していただき協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」への知識の習得の為の勉強会が、委員会を中心に実施され、積極的参加ができています。勉強会から得た学びを活かし、「施錠しない介護」の実践に取り組んでいます。	9月に身体拘束に関する学習会を実施した。日中は玄関を開錠している。外出傾向のある方には他のフロアに来ていただき気分転換を図ったり、一緒に散歩に出かけている。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「尊厳」を常に意識し、研修会の定期的開催による意識の継続を図り、職員間の相互作用による「虐待防止」意識認識の効果に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「個人の尊厳」を意識し、適材適所のアプローチが出来る職員教育への構築に努力を積んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時から、当施設の特徴を分かりやすく説明させて頂き、再度契約時での契約内容の総合理解が保てる様努力させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご家族様の要望、ご利用者様の「思い」を傾聴し、職員の意識の中に「具現化」する活動の定着を図っております。	6割以上の方は自分の思いや意見を言葉で表出できる。言葉で伝えられない方には、表情や動作等の身体表現から感じとっている。面会時に家族の意見を伺い、要望にはすぐに対応するようにしており職員に浸透させている。毎月事業所便りを発行し家族に配布し意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の開催による、委員会活動の報告を行うと共に、法人としての方向性を、タイムランで周知出来るようにしています。	毎月第三または第四水曜日に定例の全体会議を実施し、全職員が参加するように心掛けている。委員会の報告や意見交換を実施し、法人の方針や方向性の周知を図り、職員からの意見や提案も聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定に則り、給与、福利厚生に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、専門ケア研修等への積極的参加の促し、希望研修の構築に努力しています。職員個々人の力量の見極め、アップステップの見極めを行い、提案しています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加による、異職種との交流の機会を設け、個々人が学び、成長への糸口が習得できる提案を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を「縁を頂く」と思い、ご家族様、ご利用者様の立場に立ったニーズの把握を行い、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ご縁を頂く」の想いに則り、良き支援者であろうと努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様が求めるニーズの把握を主軸とし、専門職としての知識、経験を活かし、生活を実践、支援できるような資源提供を分かり易く説明できる様に努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面、場面での対応時、嫁であり、娘であり、孫であり、等を演出できる柔軟的発想を心掛けるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に暮らす事の無いご家族様が、より安心してご家族様に向き合える場である様に、ニーズの把握は基より、ご家族様への配慮の言葉掛けへの周知を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所施設としての基本は守りながらも、それまでの人生感、人間関係継続、への支援を行っております。	知人・友人の面会もある。初めて面会に見えた方には関係をお尋ねし、対応している。誕生日には「思いの実現」として、本人の望む場所に行き思い出作りをしたり、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人と人の中での、それぞれの人生感を大切にする中で、集団的バランスを考慮しながらの受け入れ態勢を実践しております。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、「ご縁」を念頭に、ご相談窓口としての役割を継続させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から得る「言葉」「表情」「行動」を軽視せず、情報としてカンファレンスに反映させ、ご本人本位の暮らしの支援を行うように努めております。	6割くらいの方は言葉で思いを伝えられる。伝えることが困難な方には表情や動作から感じ取り把握している。排泄や入浴は同性介護を心掛けている。本人の望まないことには踏み込まない等、本人本位に関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ニーズの把握の課程で、生活歴に重きを置き、「その人らしく」を継続出来るようプラン作りに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「今日のご本人」への把握を、バイタル測定、お茶の時間等の、時間の共有の中で把握できるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでの課題の集約に努め、過剰介護にならない、自立支援を念頭にプランニングするように努めております。	利用者の担当制をとっており職員は1~2名の方を受け持っている。担当職員の意見やモニタリングを参考にして、介護計画作成担当者が計画立案をしている。「自立」をコンセプトにし、過剰介護にならないようプランニングしている。状態変化のみられる時にはその都度見直し、通常は3ヶ月毎に評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	5W1Hを基本とし、ご本人の言葉を大切にしながら、日常経過録の作成に努め、変則業務で関わる際の、タイムラグを最小にするよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内各施設との連携により、専門職間の連携をスムーズに臨機応変、適材適所に心掛けております。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「出来る事」の把握の中、地域への買い物、献立作りへの参加をへて、役割意識の継続化を図れるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の定着が図れ、緊急時対応への連携が図れています。	月に1回の往診がある。訪問看護ステーションから週2回訪問がある。提携医が24時間対応可能で緊急時に駆けつけていただける。歯科医師の往診も可能である。本人の希望で従来からのかかりつけ医への受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の「目配り、気配り、心配り」の徹底により、情報収集、報告、連絡、相談の構築に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医への情報伝達を密にし、入退院がスムーズできる体制が構築されています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人規定、グループホームによる重度化指針に則り、契約時での説明等、場面場面での説明が、段階的に進められるシステムが構築されています。	重要事項説明書に方針が明記されており、契約時と必要が生じた時に説明と確認を行っている。本人や家族の希望に沿った終末期が迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員への「救急救命講習」の推進を行い、委員会活動の中での、緊急時マニュアルの徹底理解を図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「ミニ防災訓練」を欠かさず、常に一人での行動が実践できるように訓練を積んでおります。年2回の「総合防災訓練・地域と共に」の実施を行い、地域住民の皆様のご協力を頂き、有事の際の避難誘導等への訓練参加頂いております。	年2回総合防災訓練を実施し、地域の方の参加、協力を得ている。月に1回ミニ防災訓練を実施し、常に有事の際の行動を意識して業務についている。夜間を想定した訓練も実施し夜勤者1人でも行動できるように積み重ねている。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「介護は心」を念頭に、関わり方の態度、言葉掛けに、心を添えるよう周知徹底を年間通じて行っております。	利用者を「～様」とお呼びしている、またその方が好まれる呼び方や方言で話すこともある。利用者一人ひとりを尊重した言葉かけや態度をもって接している。個人情報の保護やプライバシーの尊重を念頭に接遇の研修も重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心掛け、「想い」に寄り添える行動の実践に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各勤務における業務マニュアルは実践されているものの、ご利用者様ニーズ優先を心掛けた支援を実践させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの洋服、持ち込みの洋服の管理、保存の徹底を行う中、ご自身の洋服選択への支援を実施し、ご本人らしく過ごす日常を守るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、「希望献立日」を設け、食する事への興味の継続、嗜好への支援、食を通じての会話の機会の構築を実践しております。日常的に食事の準備、配膳、片付けにおいても、出来る事を出来る方にして頂くように実践しております。	献立は職員が1週間ずつ交代で立てている。水曜と土曜は希望献立の日として利用者の希望を取り入れ夕飯を作っている。3割くらいの利用者は準備や片づけを積極的に手伝っている。味付けや盛り付けを工夫し、食欲をそそるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては、主治医との連携により、1000/日を目標に、常に摂取頂けるように支援しております。体に良い食材の提供を心掛け、メニューへの取り込みの為の工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「口腔から健康維持」を意識し、食後の口腔ケアは、必ず実践。口腔内の異常の早期発見に努めております。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表は存在するが、個々人の時間を尊重し、出来る限り自立した排泄の支援を心掛けての支援をおこなっています。	自立の方が3名で他の方は何らかの介助を必要としている。食事前と就寝前は声かけを行うが、表情や動作から推測して個人対応を大切にしている。自立支援をモットーに、出来ることには手を出さず見守るように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策とし、排便チェックによる便秘状況の把握、対応検討を医療面、介護面での支援に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はあるが、ご本人の身心状況への配慮を欠かさず、楽しめる入浴への支援を心掛けております。	週4日の入浴日を設定しているが、本人の希望や体調を考慮して最低週に2回入浴していただいている。拒否の強い方には時間を変えたり楽しい気分になるような声かけをし誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の体調、体力への配慮を怠ることなく、個人の時間を過ごせる配慮を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴の把握を基本情報の確認で行い、処方薬の効能、適応根拠の理解を徹底出来るように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ることを、出来るだけ」を基本に、個々人への役割意識への提案を行い、達成感への共有に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域への買い物、必要物品の購入時の外出、誕生日での「想いの実現」に向け、ご家族様のご家族に対する想いの傾聴、想いの具現化への同席交渉等、家族の絆の継続が図れるよう努めております。	必要物品の買い物等で外出したり、「想いの実現」として家族同伴で利用者の希望する所や馴染みの公園などにでかけている。ホームのウッドデッキは日当たりが良く外気浴に最適な場所であり、日常的に利用し気分転換を図っている。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人が実際に現金を所持し、使用することはないが、嗜好品購入、必要物品の補充等、ご家族様を巻き込みながら支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	想いの傾聴の中で、希望に添えるような支援を心掛けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	委員会を中心とした、環境整備を実施した上、個人の環境が保て、安全性を確保できるように支援に努めております。	天井が高く広々とした共用空間は日当たりが良く明るい。玄関には大きい鉢植えがあり赤い花が目についた。利用者の手作り作品も多数飾られている。清潔でほっとする空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞、雑誌、生花、などを自由に手にしたり、感じたり出来るように工夫をし、それぞれの想いの赴く行動が制限されないよう支援できるように努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の空間である事を認識し、節度を持って対応する事を心掛け、プライベートを保てるように接する配慮を行っています。面会時、個人の居室での面会が楽しく行える配慮にも努めております。	居室内には家族写真や誕生日の色紙などが飾りつけられている。本人手作りの作品も飾られていて、穏やかな空間になっている。本人の好みを大切にし一人ひとりを尊重した対応が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な福祉設備はなく、出来る限りの「自立」を支援出来る環境づくりに心掛けております。		